

# 第8回自己炎症疾患研究会のお知らせ

平成27年2月7日 13時15分-17時15分

場所：フクラシア東京ステーション会議室K（5階）（東京駅近く）

入場無料

自己炎症疾患は、周期性発熱、不明熱等の炎症を主病態とする遺伝性疾患です。アメリカ NIH の Kastner らが自己炎症という概念を提唱して 15 年がたちました。この間、本邦においても、各自己炎症性疾患の厚労省研究班、さらにそれを統合する形で“自己炎症疾患およびその類縁疾患に対する診療基盤の確立”班が組織されました。このような調査・研究により、遺伝子検査体制の整備、診療フローチャートの作成、患者登録システム、WEB サイト作成、臨床治験の推進等、自己炎症性疾患診療基盤作りが進んできております。

今回のプログラムでは、自己炎症性疾患の中心舞台である自然免疫系に焦点をあて、特別講演として、東京大学 岩倉洋一郎先生に“自己炎症、自己免疫に於ける IL-1 の役割”、徳島大学 安友康二先生に“自己炎症疾患の免疫遺伝学”についてお話し頂きます。通常 review talk をお願いしている部分では、ベーチェット病、PFAPA、PAMPs としての皮膚常在菌をとりあげ、現在ご活躍中の若手の先生方にご発表いただきます。また、ご自身を CAPS と診断されました中村友紀先生に、これまでのご経験についてお話しいただきます。奮ってご参加のほど、何卒よろしくご願ひ申しあげます。

症例提示をご希望の先生は、平成27年1月31日までに西小森まで E-mail でご連絡ください。

E-mail: [rnishiko@kuhp.kyoto-u.ac.jp](mailto:rnishiko@kuhp.kyoto-u.ac.jp)

発起人 井田弘明（久留米大学 第一内科）、西小森隆太（京都大学 小児科）

## 研究会プログラム

13:15 開会の挨拶 井田・西小森

13:20-13:40 大阪大学医学部呼吸器・免疫アレルギー内科 高松漂太先生  
“ベーチェット病におけるミトコンドリアDNAの病的意義”

13:40-14:00 千葉大学皮膚科 松岡悠美先生  
“皮膚細菌叢による肥満細胞を介した炎症惹起のメカニズム”

14:00-14:20 岐阜大学小児科 大西秀典先生  
“PFAPA症候群の臨床症状の多様性及び遺伝的素因の分析”

14:20-14:40 鹿児島大学神経内科 中村友紀先生  
“CAPS とともに歩んできて”

14:40-14:50 休憩

14:50-15:35 特別講演1 徳島大学 安友康二先生  
“自己炎症疾患の免疫遺伝学”

15:35-16:20 特別講演2 東京大学 岩倉洋一郎先生  
“自己炎症、自己免疫に於ける IL-1 の役割”

16:20-16:30 休憩

16:30-17:10 症例検討会

17:10-17:15 閉会の挨拶 井田・西小森

